

(「一寸先は光です」)

# 校長だより

平成29年10月6日(金)

第16号

「我が子を入れたくなる学校をつくりたい」(初代校長)

那覇西高等学校長 長濱 雅仁

## 第11回文化祭”オレたちのMemories”大盛況のうちに終了(過去最高入場者数?)

文化祭お疲れ様でした。学校行事、部活動(生徒会活動)、授業は、生徒の皆さんを大きく成長させる三本柱であると、校長は信じています。人を動かすことやまとめることの難しさ等、なかなか思うようにいかないことも多かったと思います。しかし、きっと将来役立つことを身につけたと私は思います。また、本校を訪れた多くの方々を通して、本校の伝統の重さと期待を感じたのではないのでしょうか。生徒(生徒会)主導による情熱溢れる催し物、「チーム那覇西」のおもてなしの心(温石)は見事というほかにありません。来場者総数は、2772名でしたが、保護者を1世帯1とカウントしたので、(実際は2~5人くらい)正確には3200名以上の入場者数だったと思われます。ｽﾞｲ!ｽﾞｲ!ﾀﾞｲｶﾞｰﾀﾞｲ!

### ◆大会・コンクール等予定・結果

- ・9/30~10/1九州新人水泳大会が鹿児島で開催され、當銘真人君(2-9)が100平で見事決勝9位でした。
- ・いよいよ、今月からサッカー選手権大会、新人大会が開催されます。「チーム那覇西」ゴー、ゴーですよ!

### ○校内外の小さな変化・成果がありました!気がついたでしょうか?

- ・PTA美化作業大盛況:職員17名、保護者40名、参加部活動17、生徒217名の参加がありました。
- ・後夜祭:壽会長をはじめとする生徒会役員と先生方が入念な打ち合わせを行い、時間通りの開始、時間通りの終了となりました。見守っていたPTA石川副会長からも高い評価を頂きました。合掌!
- ・各クラスとも品のあるクラスへの呼び込みは評判良かったですよ。PTAの加等本当においしかったです!3-6のぜんざいを体育科の先生方は堪能していました!もちろん、校長先生もですよ。

## 10月 校長自身の「武辺話」から

秋風が吹き始めました。この季節になると走馬燈のように思い出す出来事があります。それは校内で行われた、たった二人の1500Mレース(中距離走:校内道路5周)の死闘です。走った走者は国際人文科代表英語科の豊見山進先生、そして体育科代表は何を隠そう私でした。(お互いは「トミ、マチャ」と呼び合う親しい間柄でした。少なくともあの日までは...)そもそものきっかけは、平成7年の10月頃、体育館の教官室に顔を出した豊見山氏が、「デブはいるか？」の一言でした。(私はその時不在)それを聞いた体育科内の先輩方は激怒し、「よりによって、体育科の職員が他教科から、デブ呼ばわりされるとはけしからん。君は悔しくないのか。…」あれよあれよという間に体育科でマがマが流出し、結局 12月15日、二人はレースをすることが決定したのでした。そのことは瞬く間に全校生徒も知るようになりました。当時の宮城喜一校長は、体育科と人文科の対立に発展しかねない異様な雰囲気を感じ、何とか取りやめさせようと双方の準備室を訪れ、懸命に説得工作したのですが、私達は「相手が降りなければこちらから降りることはない」と言い張り、説得工作は不調に終わりました。(豊見山氏(先輩)は陸上専門、県の教職員駅伝大会「花の1区」で区間1位を獲得した名ランナーであったことを知ったのはレース間近のことでした。あとの祭り・・・ウグ!)結局、二人は雌雄を決することになり、3ヶ月の猛練習が開始されたのでした。レース当日、校内道路は多くの生徒達で埋め尽くされました。レース直前、陸上部の先生から「彼はかつての名ランナーだ。彼の後を歯を食いしばってついていき、ラストで勝負をかける」とアドバイスされたのですが、号砲が鳴った途端、私は、無我夢中で先頭に飛び出していったのです。(スタート、ゴールは、トレーニング室前のコートでした。)校内道路のあちこちに横断幕があり、弥が上にもアドレナリンは最高潮モードでした。抜かれそうになるとスピードを上げ、常に小さなリードを保ちつつ、スタート付近で渾身の力を振り絞り、ラストアドレナリン。感動のテープを切ったのでした。70cmのトワイは今でも校長の寝床で輝いているのです。